

火災に巻き込まれたときの避難の方法

火災で最も恐ろしいものは、火そのものよりむしろ煙です。

煙の中には、不完全燃焼によって発生する一酸化炭素や有毒ガスが含まれています。

平成13年に44名もの命が犠牲となった「東京・新宿歌舞伎町ビル火災」でも、そのほとんどが煙による一酸化炭素中毒死と見られています。

煙は熱せられた空気とともに、上・横・下の順に広がっていきます。

あわてずに、煙を吸わないよう姿勢を低くして避難することが大切です。

避難するときのポイント

- ① 服装や持ち物にこだわらず、姿勢を低くし、ハンカチやタオルなどで口・鼻をおおい、早く逃げて下さい。



- ② 一度逃げ出したら、絶対に戻らないようにしましょう。



- ③ エレベーターがあっても絶対使用しないで下さい。



- ④ できるだけ、建物外や下階に避難しましょう。



避難することができなくなった場合の注意事項

- ① 煙が進まないよう、ドアなどのすき間に衣類等を詰め、目貼りをし、救助を待ちましょう。

- ② 窓等から目につきやすい物を振って、助けを求めましょう。

- ③ あらゆる方法で、周りの人に逃げ遅れたことを知らせましょう。

- ④ 落ち着いた行動や判断をし、不用意に飛び降りたりしないで下さい。

普段からの備えが大切

- ① 廊下や出入り口、階段等には、避難の妨げとなる物は置かないで下さい。



- ② 2階から上の階には、避難用のロープやハシゴを備えておきましょう。



- ③ 万が一の場合を考え、避難方法等について、家族で話し合っておきましょう。



- ④ 避難訓練等には進んで参加し、煙の中での行動要領について体験しておきましょう。

